

来て見て永平寺町

観光ボランティアニュース

永平寺町観光ボランティアガイドの会 広報紙 第2号

平成26年12月19日 発行

<発行元>

永平寺町観光ボランティアガイドの会
(永平寺町役場商工観光課内)

永平寺町松岡春日1-4 (TEL 61-3921)

ツアーレポート

上志比の歴史と文化に触れた一日

上志比地区寺社巡りツアー 11月6日

「上志比地区の歴史や文化に触れる」をテーマに、「神社・仏閣を巡る」ツアーが町観光ボランティアガイドの会主催で開催されました。参加者は会員を含めて26名。

参加者の中には永平寺町に引っ越して来られ、永平寺町の歴史や文化を知りたいというご家族もおられ、赤井家の馬上門から吉峰寺をはじめ興行寺・山田家・竹原弁財天をコースに巡りました。

吉峰寺では修行僧より寺の説明を聞き、道元禅師さまが坐禅されたという坐禅石を拝見。また、本堂の静寂の中での坐禅体験では自分と向き合うこともできたようです。

蓮如聖人ゆかりの寺、興行寺では本堂の56枚の美しい天井絵の色鮮やかさ、すばらしさに参加者は感嘆していました。築庭400年を誇る庭園のしだれ桜も必見でした。

興行寺近くの山田家では大本山永平寺67世北野元峰禅師さまのゆかりの品々や今、話題の白蓮が俳句を読んだ色紙などを拝見させて頂き大変貴重なときを過ごしました。

最後に訪れた竹原弁財天では、小雨が降る中参加者のご神体の白蛇さまを拝めるか否かで神妙な面持ちで手を合わせていましたが、しっかりと拝むことが出来ました。

今回、上志比地区の歴史や文化に触れるツアーとして、初めての試みでしたが参加者全員の方に満足していただけたようです。

行く先々で参加者の皆さまの手を合わせ、拝む姿はとても美しく印象的でした。



坐禅体験



興行寺



山田家にてひと休み



弁財天白龍王大権現

光を観る

暑い夏の日に長岡京市へ行ってきました。京都から電車で10分の町です。昔、むかし、都が置かれたところです。中世ではあの細川ガラシャが嫁いだお城がある町です。浄土宗の本山もあり、近隣には西国霊場札所もあります。京都へお出かけの節には是非とも足を延ばしてください。お勧めします。

その日のガイドさんの話が強烈で印象的でした。毎年、市長、観光協会長を先頭に、東京、名古屋へと宣伝隊を送っていますが、なんの効果もない。観光客はみんな京都で止まってしまいますと。

ガイドの会では、ベッドタウン化したこの町では、まずは地元の人に町の歴史や良さを知ってもらう取組に力を入れています。今、細川ガラシャの生涯をテレビドラマ化する運動を近隣5市町でしています。等々。

暑さも強烈でしたが、お話もそれ以上に強烈でした。

観光ボランティアガイドの会会員募集中！町内の歴史について勉強しませんか？お問合せは事務局まで

金沢まいどさんのもてなしの心に学ぶ

観光ボランティアガイド北陸大会 in 金沢 11月12日（水）

北陸地方のガイドが一同に会する、観光ボランティアガイド北陸大会に参加しました。第4回目の今年の開催地は、北陸新幹線開業で盛り上がる金沢市です。

研修の一環として、まず4コースに分かれて市内を金沢ボランティアガイド会「まいどさん」の会員さんに案内してもらいました。皆さんご存知のとおり、金沢市は前田家のおひざもととして栄えた城下町です。様々な建築物、寺社仏閣の歴史的由縁のほかに、古い建物を、歴史的建造物かつ観光資源として活かすための様々な工夫などをお聞きしました。ガイドさんと一緒に歩かないとお聞きできない貴重なお話です。

研修の後は、美しい着物に身を包んだ女性にお抹茶とお菓子をご馳走になり、ひと休みし、最後に交流会に参加しました。各団体のガイドと意見交換し、来年3月の北陸新幹線開業のこのチャンスに観光地北陸を盛り上げようと決意を新たに、研修を終えることができました。

金沢観光ボランティアガイドの会「まいどさん」は総勢312名。一人一人の暖かいおもてなしの心が感じられた研修会でした。



4コースに分かれて
市内研修



金沢市長の
あいさつ
(交流会)

わが青春の故郷を訪ねて

永平寺町松岡に生まれ育ち金沢に嫁いだ友人が久しぶりに訪ねて来られました。

松岡の町中を散策して歩きました。小学、中学生の青春時代を過ごした街を足取りも軽くぶらりぶらりと。

えち鉄の電車に乗って、松岡駅から旧台町春日神社、天龍寺とお参りして、小学生の頃古墳が出た春日山に寄り、松岡にもこんなに素晴らしい所があったかと感動し、歴史が好きになったのは今は亡き畑導（つとむ）先生のおかげですと友人は語り、春日祭りでにぎわいを見せた極印通りを歩き、ラッキーに寄り、春日神社では宮司さんに会い、楽しそうに昔話をし、松岡を思い出しました。わずか4時間ばかりですが、心のふるさつを見つけたようです。

庭のある喫茶店で一休みし、松岡にもこんな所があったんだと、友人と私は50年前にタイムスリップしたように心を弾ませました。

芝原弁財天

弁財天はもと松岡地区観音町摂取寺の裏にありました。松岡藩は城下繁栄のために春日神社の末社として御造栄されました。弁財天は七福神の女神として川の辺にまつる女神であり、人々の汚れを祓い九頭竜川を守り長寿と財産健康子孫繁栄などの守護神として貴ばれています。

現在の位置に移されたのは昭和56年。発願者の故 和田嘉多志氏を中心に芝原区民の厚い願望でありました。祭礼は毎年9月23日の祝日です。※現在は松岡観音2丁目にあります。

歴史ノート

合月の渡し

松岡の薬師地区の「垂戸嶋」元は河戸嶋（こうどしま）から上合月地区の「古屋敷」（船嶋）へ渡しがありました。

渡しは藩の支配下にあり、※「水主組」（かこぐみ）が主に取り仕切っていました。御水主（おかこ）は藩の足軽で主に水運にかかわる仕事をしていました。（廃藩後は合月に任された）

参勤交代の時などは川の中に入って殿様の船を守ったようです。御主水（おかこ）は廃藩後は一部上合月に移住して船渡しをした人もいたようです。昭和の初期には五松橋の下あたりに船頭小屋と二軒の家があったそうです。

※かこ…ふなのり、船の乗組員（歴史民俗用語）



芝原弁財天